

【用語】 砥沢村—甘楽郡南牧村 砥山—砥石山のこと 往古—遠い過去、おおむかし 奈良屋—江戸の町年寄三家の一家 運上—商人や運送業者などに課した営業税 已来—以来とも書く 勘弁—考えわきまえること 員数—数量 渡世—生業、職業 仕業—行為、所業 砥株—砥山で砥石を切り出す権利 地方—ここでは耕作地

【解説】 甘楽郡南牧村砥沢はその名のとおり、古くから良質の砥石が産出された。その起源は明らかでないが、江戸時代を通じて幕府が運上山として直轄し、各種の保護と特権を与えたため「御用砥」「上野砥」の名前で全国に知られた。

この書上帳は幕府代官の石原半右衛門が開発当初からの砥山の由来や概要について問い合わせたのに対し、砥山の元請負人市川半兵衛と現請負人福田文右衛門とが連名で提出したものである。内容は請負人の変遷や砥石の採掘にあたった砥切家の軒数、運営方法などが記され、総合的に砥山経営の実態を知ることができる。砥山の経営は幕府代官所から派遣された砥改人が常駐し、その下に砥山名主・砥山組頭が村役人とは別に置かれた。砥切りには地元の人々のみが従事したが、当時の砥切り家数は一二一軒で、うち七一軒は砥株をもつが耕地をもたない専業の家、五〇軒は砥株・耕地ともにもたない家であったことがわかる。